［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

【評価実施概要】

事業所番号	4070401379
法人名	医療法人　北愛会
事業所名	グループホームさくらんぼ
所在地	福岡県北九州市小倉北区上富野３丁目１７番１号 （電　話）　０９３－５４１－０３１４

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町３－１－７		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】　（平成19年9月20日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　１４年　８月　１日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9　人
職員数	12 人	常勤　7人	非常勤　5人　常勤換算 5人

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート　造り
	2 階建ての　1階一部　及び2 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000　円	その他の経費（月額）	60,000　円
敷　金	(有)（ 400,000 円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (無)	有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,500　円		

（４）利用者の概要　（平成19年9月20日現在）

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護１	0	名	要介護２	5	名
要介護３	3	名	要介護４	0	名
要介護５	0	名	要支援２	0	名
年齢　平均	87 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	小文字病院、新門司病院、香江歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は閑静な住宅地の中にあり、併設の老人保健施設と棟続きだが、事業所の独立性が確保された建物であり、違和感のないものとなっている。法人理事長が医師であり、また併設施設の看護師による緊急時の対応や利用者の医療面でのサポート等が充実しており、利用者・家族等の安心感につながっている。全職員は、利用者の生活歴や好み、したいことやできることを把握した上で支援を行い、利用者の表情がいきいきしているのが印象的である。利用者同士のなにげない会話やおしゃべりしながらの調理、町内での買い物や清掃活動への参加等、地域住民との交流を積極的にもち、利用者の日常の生活を支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価での改善課題については、権利擁護に関する制度の理解と活用のみであったが、その後、改善計画シートを作成し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価は、ケアスタッフ会議にて全職員で十分検討して取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は定期的に開催し、外部評価の報告や改善すべき課題について話し合い、また事業所の現状や今後の取り組みについて報告し、委員から意見をもらってサービス向上に活かしている。運営推進会議の内容は記録し、家族会・ケアスタッフ会議で伝達し、課題等を話し合っている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）

年２回、家族会を開催して、苦情や意見を聴取している。玄関に苦情箱を設置し、家族等の来訪時に意見等を聴くよう声かけに努め、それらを運営に反映させている。家族からの意見はケアスタッフ会議で話し合い、改善をしている。改善結果については、家族に報告している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

町内会に加入し、地域活動や行事に積極的に参加している。近隣の幼稚園・小学生と交流し、中学校・専門学校の職場体験を受入れている。月１回、地域向けの事業所便りを発行し、行政機関や町内会・商店等に配布している。

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、安らかにその人らしい生活ができるように支援します」「地域ニーズに応え利用者から愛される施設をめざします」「利用者の尊厳を守ります」という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は全体のケアスタッフ会議の中で理念を確認している。管理者と職員は理念を理解して共有し、日々の介護で実践している。		
２．地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域活動や行事に積極的に参加している。近隣の幼稚園や小学生と交流し、中学校・専門学校の職場体験を受入れている。月１回、地域向けの事業所便りを発行し、行政機関や町内会・商店等に配布している。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ケアスタッフ会議にて全職員で十分検討して取り組んでいる。前回評価での改善課題については、権利擁護に関する制度の理解と活用のみであったが、その後、改善計画シートを作成し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に開催し、外部評価の報告や改善すべき課題について話し合い、また事業所の現状や今後の取り組みについて報告し、委員から意見をもらってサービス向上に活かしている。運営推進会議の内容は記録し、家族会・ケアスタッフ会議で伝達し、課題等を話し合っている。		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月１回発行の地域向けの事業所便りを配布し、相談へも出向いている。また、グループホーム協議会と行政との話し合いを持つ等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、家族会を通じて家族に説明している。外部研修で受講したパンフレットを学習会で配布し、全職員に周知を図っている。成年後見制度のパンフレットと学習会を実施した記録がある。		
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月１回、家族向けの事業所便りを発行している。また、３ヶ月毎に健康状態等、暮らしぶりをまとめた「３ヶ月状況報告書」を作成し、家族に報告している。金銭管理については、個別に台帳に記載している。月１回、家族の来訪時に確認し、押印してもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年２回、家族会を開催して、苦情や意見を聴取している。玄関に苦情箱を設置し、家族等の来訪時に意見等を聴くよう声かけに努め、苦情箱を利用しやすいように工夫する等、それらを運営に反映させている。家族からの意見はケアスタッフ会議で話し合って改善し、改善結果については家族に報告している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動を最小限に抑えるように努力している。やむをえない異動や離職の際は、引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員については、自ら考え学び行動することで本人が本来持っている力や可能性を最大限に発揮できるように支援し、職員の適材適所を考えて法人内での異動も行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修で、人権啓発用ビデオを観たのちに討論会をし、人権を尊重するよう取り組んでいる。母体法人と共に年間研修計画を作成し、可能な限り外部研修にも参加し、内部で伝達研修を行い、職員等に対する人権教育に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に内部・外部研修を受ける機会があり、研修内容を全職員が共有できる仕組みがある。全職員に対して、段階に応じて研修参加の計画があり、職員を育成するための具体的な計画がある。学習会やケアスタッフ会議を定期的に開催し、職員の資格取得の支援を行っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、月１回、研修会を開催している。新人研修・親睦会・ケアプラン・行政との対話・介護技術・認知症大会の研修等を設けて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及び家族の事業所見学から始め、その後、本人が事業所を何度も来訪して、事業所の雰囲気に馴染めるよう配慮している。また、やむをえず即利用になった場合は、家族にはじめの２週間は付き添ってもらう等して、利用者に安心感を持ってもらうよう努めている。		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や片付け、畑仕事等、職員が知らない生活の技を教えてもらい、また利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら職員と利用者がともに過ごし、学び支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 **１．一人ひとりの把握**					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声かけして希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、家族から生活歴等を聴き、ミーティングで話し合って、本人本位に検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを行い、ケアスタッフ会議や随時の意見交換し、本人や家族の意見も含めて、利用者一人ひとりに具体的な介護計画を作成している。家族が了承した署名または押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月に１回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院による認知症の悪化を防止し、早期退院のために毎日職員が見舞いを行い、本人、家族、医療関係者との連携も深めている。本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向と本人の病状を把握して、それぞれに適切な受診支援を行っている。家族等と受診時の通院介助の方法、情報の伝達方法について話し合い、合意している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と練り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。入居時に家族等へ資料を配布し、重度化や終末期への方針の共有に努めている。また、医師でもある代表者が、これらの重要性を家族会等でも説明し、利用者・家族等の意向を大切にしながら、職員も含めて全員で方針を共有している。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 **１．その人らしい暮らしの支援** **（１）一人ひとりの尊重**					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、母体法人と合同で行う内部研修や月例会議で、その理由等の理解を図っている。また、管理者や専任職員は、職員に対して随時プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いについて指導を行っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールはあるが、利用者の希望や生活歴、性格を把握して、一人ひとりのペースを大切にして柔軟に対応している。		
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。同じテーブルで同じ内容の食事を、和やかに楽しく食べている。		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせて、入浴支援を行っている。入浴拒否の人については、一人ひとりのタイミングや意向に応じた入浴ができるように隣接のデイサービスセンターの大浴場も活用する等して、入浴を支援している。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、料理、梅干し作り、畑や花壇の水遣り等役割があり、職員及び利用者それぞれが、感謝の気持ちを伝えている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調に配慮しながら、毎日散歩や、月１～２回外食や買い物を、利用者一人ひとりの希望に応じて支援している。		
（４）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、事業所職員だけでなく母体法人職員の見守り協力や、町内会長を通じて、近隣住民に見守りや声かけをしてもらえるよう働きかけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に関するマニュアルを作成している。避難訓練については、消防署の協力の得て年２回行い、事業所独自では２ヶ月に１回行っている。町内の会合で、地域住民への呼びかけている。非常用食料や備品を準備している。		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量と水分摂取量は、全利用者分を記録している。月１回、管理栄養士及び医師による専門的チェックを受けている。献立は、季節や利用者の嗜好を考慮して作成している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者製作の作品を共用空間に飾り、家庭的雰囲気に配慮している。事業所の内装は、木を基調としており、落ち着いた雰囲気である。不快な音や採光はなく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン以外は全て持込みになっており、利用者の馴染みの物や家族写真、飾り物を持込み、各居室からは個性が感じられ、本人が居心地よく過ごせるようになっている。		

※ ［　］は、重点項目。